
日付：2004 年 10 月 8 日

提出元：保護判定基準見直しに関する事業者間アドホック会合コンピナー¹

題名：保護判定基準見直しに関する事業者間アドホック会合報告

1. はじめに

JJ100.01 第 3 版における保護判定基準の方向性について、計 2 回の事業者間アドホック会合を開催した。本寄書は、事業者間アドホック会合における会合報告を行うものである。

なお、本寄書は、SWG において非公開寄書として取り扱うことをアドホック参加事業者の総意として要望する。

2. 事業者間アドホック会合

2.1 第 1 回事業者間アドホック会合

- (1) 開催日時 : 平成 16 年 9 月 28 日 (火) 13:00 ~ 17:00
- (2) 開催場所 : TTC D,E 会議室
- (3) 参加事業者 : アッカ・ネットワークス、イー・アクセス、NTT 東日本、NTT 西日本、ソフトバンク BB、ビック東海、TOKAI、長野県協同電算

2.2 第 2 回事業者間アドホック会合

- (1) 開催日時 : 平成 16 年 10 月 1 日 (金) 11:00 ~ 16:00
- (2) 開催場所 : TTC A 会議室
- (3) 参加事業者 : アッカ・ネットワークス、イー・アクセス、NTT 東日本、NTT 西日本、ソフトバンク BB、ビック東海、長野県協同電算

3. 事業者間アドホック会合における合意事項

計 2 回の事業者間アドホックの開催により、新規 システム用の判定基準 (以下、導入判定基準 (仮称) と言う。) の検討の方向性について合意を図った。

3.1 導入判定基準 (仮称) の目的

導入判定基準の目的は、「DSL 利用者の利用環境 (平均的速度) の維持を目的に、保護判定基準を現状より厳しくし、新たに スペクトル適合性を評価する伝送方式が既存伝送方式へ与える漏えいによる影響を軽減させる。」ことである。

「新規」及び「新たに」の解釈は、別途整理する。

¹ アッカ・ネットワークス 岡崎 kokazaki@accanetworks.com 、NTT 東日本 佐々木 masaaki.sasaki@east.ntt.co.jp

3.2 基準の扱い

- (1)最低伝送速度を示す保護判定基準値は、JJ100.01 第2版と同様の考え方 を踏襲する。
なお、JJ100.01 第2版と同様の考え方とは、クラスA代表回線相互（TCM-ISDN含む）の干渉計算に基づく事を意味し、パラメータ、計算式等については、JJ100.01 第3版の合意事項を適用することである。
- (2)JJ100.01 第2版で既にスペクトル適合性評価済みの伝送システムについては、(1)項の最低伝送速度を示す保護判定基準値を元にスペクトル適合性を評価する。
- (3)スペクトル適合性を評価ために、JJ100.01 第3版では、新たに「導入判定基準値（仮称）」を規定する。

4. 今後の課題

3項の合意事項の詳細を詰めるためには、以下の課題解決が必要である。

- (1)導入判定基準値（仮称）の決め方については、これから議論する。

案1：TCM-ISDNを除くクラスA代表回線相互の干渉計算を基にする。

- ・緩和値等を含めた導入判定基準値を設けて、EU方式の暫定運用の利用制限を担保する
- ・導入判定基準値には、緩和値を考慮しない。ただし、EU方式の暫定運用の利用制限については、別途、考慮する。
 - ・利用制限を担保する。
 - ・利用制限を担保しない。
 - ・暫定運用の利用制限を変更しない。

案2：TCM-ISDNを含むクラスA代表回線相互の干渉計算を基にする。

- ・緩和値等を含めた導入判定基準値を設けて、EU方式の暫定運用の利用制限を担保する
- ・導入判定基準値には、緩和値を考慮しない。ただし、EU方式の暫定運用の利用制限については、別途、考慮する。
 - ・利用制限を担保する。
 - ・利用制限を担保しない。
 - ・暫定運用の利用制限を変更しない。
- ・AnnexA/Cの導入判定基準値を合わせるか、AnnexAをAnnexCに代表させる。ただし、EU方式の暫定運用の利用制限については、別途、考慮する。
 - ・利用制限を担保する。
 - ・利用制限を担保しない。
 - ・暫定運用の利用制限を変更しない。

- (2)どの伝送システムから導入判定基準値（仮称）の計算による限界線路長を適用するかは、これからの議論する。

- (3)導入判定基準値（仮称）をどのような方法で整理するか？
（JJ100.01 第3版、技術レポート、SWG 議事整理等）

保護判定基準値と導入判定基準値を JJ100.01 第 3 版に明記する。(アドホックでの合意)

5. 今後の検討の進め方

JJ100.01 第 3 版のパラメータ、計算式等を仮決めし、仮計算を行うことにより、各種パラメータ等を絞り込み、結論を導く。

(干渉源) カッド内 1、隣接カッド 1

カッド内 1、隣接カッド 4

(多重漏話減衰量) 累積 99%値

(ビット数) 15 ビット、14 ビット、8 ビット

(コーディングゲイン) 0, 2, 3, 5 の何れか

トレリス有り 2, 5、トレリス無し 0, 3

(S/N マージン) 下り 6 上り 4

(計算式) JJ100.01 第 2 版のまま。

JJ100.01 第 2 版を変更する。

- ・群遅延の考え方を導入。

- ・1.1MHz 以上の周波数帯域における漏話減衰量の変更。

以上